

女性現実研究所 資料『女性現実物語』

本部セクター (センター)

よくある性に関するご相談などへの回答



まるで物語のような女性の現実に寄せて

初版：2004年3月16日

最終更新：2019年9月14日

～ 著者 ～

◆女性現実研究所 代表スタッフ (代表ウォッチャー、男女)

～ 編者 (女性からのご相談、ご投稿、情報提供の受付および本著の編集) ～

◆女性現実研究所 幹部女性スタッフ (幹部女性ウォッチャー) 一同

～ ご協力者 (代表および幹部女性スタッフ一同より厚く御礼申し上げます) ～

◆女性現実研究所 一般女性スタッフ (一般女性ウォッチャー) の皆様

(社会人女性スタッフ、主婦スタッフ、女子大学生スタッフ、女子高校生スタッフ)

◆女性現実研究所にご相談、ご投稿、情報提供して下さった全ての女性の皆様

(本著では、女性ご本人から公表のご希望やご許可を頂いた事例のみを取り上げておりますが、全ての女性にメール返信や面談などの個別対応を行っております。)

【ご相談内容】

私は AV に出演している女子大生ですが、家族に知られたくないので、内緒でそちらの寮に入居できますか？ AV 女優の友だちなどは作れますか？

ほぼご入居いただけません。当研究所の寮は、AV 女優用の合同宿舎ではありませんし、そのような目的ではお使いいただけません。(ご入居にはご本名での身分登録や賃貸契約が必要です。)

ただし、依存的・病的に AV に出演し、精神科医などの診断を受けている女性には、ご入居いただき、出演を徐々に減らし、最終的には出演しないで通常の仕事・生活ができるようになるためのリハビリや友だち作りに励んでいただいております。

【ご相談内容】

セックス依存症で、これまでに 100 人ほどの男性・女性と関係を持ち、AV に出たり風俗に勤めたりもしました。今はやめていますが、正直しんどいです。誘惑を見ないように生活をしたいのですが、このような場合は入居できますか？

ご入居いただける可能性はありますが、過去のご経験から見て性感染症・性病にかかったり経験している可能性があり、その場合は完治していただくなど、満たしていただくべき必須条件があります。

【ご相談内容】

高校のときに自分からインターネットで応募して AV に出演した女子大生です。本番はなく、指で性器を広げたり放尿したりするシーンを撮っただけですが、その AV 動画が応募した AV サイト以外でインターネットに流れていて困っています。回収してくれますか？

申し訳ございませんが、当団体はそのようなご依頼は現在、優先的には承っておりません。また、そのような目的が第一目的の団体ではございません。従って、対応できるかどうかは、あなたがどれだけご自身の意識改革をできるかによります。特に、「～シーンを撮っただけですが、～回収してくれますか？」の部分、ご自身で読み返してみて、いかがでしょうか？ あなたの性観念は、動画を流通させた業者よりも、明らかに正当なものでしょうか？ 私たちの団体は、自らアダルトコンテンツに応募した女性よりも、一方的に盗撮された女性を助けるために、存在しています。

【ご相談内容】

持続性性喚起症候群 (PSAS)、陰核過敏症、ヴルヴォディニア、ワギニズムス (膣瘻) などは、過激なアダルトビデオ (AV) のタイトルやコンセプトによく出てきますが、実在の病気ではなく、単なる AV 用の架空の設定ではないでしょうか？ 同じ女性としてちょっと信じられません。絶頂状態が続いたり、クリトリスが過敏だったり、膣穴が狭かったり、痛がったりといった設定にするほうが、過激な AV として成り立つので、男性側が考え出した「空想上のエロい女性たち」にすぎないのではないのでしょうか？

これらはどれも医学用語であり、それぞれに発症者の女性が存在します。

症状のほとんどが心理的な要因によるもので、女性器・身体には異常が見られません。これらの患者の主な診療科は、神経内科、心療内科、精神科となっています。

これらの症状は、男性側の空想の産物ではなく、むしろ多くの女性たちの告白がきっかけとなって医学的に発見・報告されてきたものばかりです。

確かに、過激な AV のタイトルやコンセプトにもよく出てきますし、これらの症状を演じている AV 女優もいらっしゃいますが、症状そのものは空想ではなく、AV とは無関係です。

逆に、AV 女優や AV メーカー・監督は、臨場感を出すため、あらかじめこれらの症状に関する知識をある程度得た上で撮影に臨んでいることも考えられ、AV を見ている男性も女性も現実の症状と演技の設定を混同しているケースが多いようです。

しばしばこれらの症状の実在が疑われる原因としては、その独特の恥ずかしさから症状を告白する女性が少ないことや、日本では海外に比べて専門医の人数が少なく、認知度も低いわりに、AV などのアダルトコンテンツでは盛んに好まれるテーマになっていることなどがあると考えられます。

【ご相談内容】

私は、特に何も性的な行為をしていないのに、性器のあたりが痙攣していわゆる「イッた」状態になることがあります。感じとしては、意図的にオナニーしたときよりも気持ちよさと怖さの両方が増す感じです。持続性性喚起症候群ではないかと思うのですが、今後家族と住むことになるかもしれないので、あえぎ声を聞かれたくないので、一人暮らしを考えています。そちらの寮に入居できますか？

持続性性喚起症候群 (PSAS) の可能性があると思います。

不随意的なオーガズムのために社会生活に支障がある場合、ご入居いただけますが、まずは診断書をお持ちいただくことになります。

ただし、PSAS を直接的に診断されていなくても、ワギニズムス (膣瘻)・性依存・心的

外傷後ストレス障害 (PTSD) など類似の別の症状として診断されていれば、ご入居をご相談くださってかまいません。(日本では、PSAS を直接的に診断する医師・病院はほとんど存在しません。)

病院に行くのが恥ずかしい場合は、まずは症状の記録メモ・日記などをお持ちいただくこととなります。その後に、スタッフが付き添って病院に行くこととなります。

【ご相談内容】

PSAS の治療では、オーガズムを抑えることが目的なのに、アダルトサイトを見たり、アダルトグッズ (大人のおもちゃ) を使ったり、ヌードになったりするレッスン (プログラム) があるのはなぜですか? 1日50回オーガズムに襲われる海外のあるPSAS女性は、仕事のあいまに職場のパソコンでアダルトサイトを見たり、職場のトイレで1日18回までオナニーしていいと医者から言われ、職場も認めていると動画にありました。そちらの寮でも、アダルトサイト閲覧、マスターベーション療法、ヌード療法はあるようですが、どうしてですか?

海外におけるPSAS・ReGSの治療では、あえてアダルトサイトを見たり、アダルトグッズ (大人のおもちゃ) を使ったりして、気分的あるいは身体的な性的興奮状態を作り出す方法は、よく見られるようになっていきます。政府 (連邦政府) や州・自治体、大学、医療関係者などが、公認の女性専用の施設やエリア (医療機関、女性寮、女性シェアハウス、ソロリティハウスと呼ばれる女子学生社交クラブの寮、ヌードリゾートなど) を使用して、上記の治療やリハビリを行うこともあります。保険が下りるものもあります。

一番の目的は、恥ずかしさや自己嫌悪感、ひいては自殺願望、自殺の遂行を防止するためです。二番目の目的は、アダルトサイトやアダルトグッズ、ヌードにあえて気を向けることで、AV出演 (海外ではポルノビデオ出演) や性風俗業就業・売春などによって過剰なオーガズム体質を生かそうとする気持ちを萎えさせるためです。

一番目については、PSAS女性に特有のものと言えます。二番目については、性依存症やニンフォマニア (女子色情症) の治療でも用いられる方法です。いずれも、普通は女性のみで行われます。

多くのPSAS女性にとって、性的な物事を見たり考えたりしていない中でオーガズムに襲われるのは、つらいことです。むしろ、性的な環境をある程度意図的に作り出さなければ、PSAS女性は心も体もうまく安定しません。ヌードリハビリやヌードレクリエーション (ヌードレク) も、まったく同じ目的で行われます。これらも、女性のみで行われます。

欧米 (特にアメリカ、オランダなど研究先進国) では、自宅以外の場所 (職場・公共施設、特にトイレ) で許可されるアダルトサイトの閲覧時間、マスターベーションの回数、アダルトグッズの持ち込み個数と種類などは、PSASの重症度できちんと決められるよう

になってきています。

私たちスタッフ・寮生も、アダルトサイト閲覧、マスターベーション療法、ヌードリハビリ、ヌードレクリエーションなど、いろいろな方法に挑戦しています。ただし、日本国内では、法律・条例上、海外（特に欧米）と比べて実践できる治療が少なく、また、PSAS や ReGS の研究そのものが遅れている（ほとんど存在しない）状況です。私たちは、国内の寮のほか、支部として海外の寮も設け、そこで本格的な治療に参加しています。

日本と欧米の治療の違いについては、以下の各資料をご覧ください。

- [女性の性器神経症と性的心理](#)
- [シェアハウス入居女性向け リハビリ・生活スタイル教本（一般女性もご参照・ご使用可）](#)

【ご相談内容】

私たちは、あなた方と同じく、ポルノ被害や性暴力をなくすために活動している団体です。性依存・性的倒錯の女性や AV に出る女性、持続性性喚起症候群（PSAS）の女性、統合失調症や PTSD の女性など、様々な女性がいることは理解しています。が、それらの女性がいることは男性や社会の責任であり、男性には先天的に思考が異常な方が多く、男性や社会による女性蔑視をなくすことが AV 女優や女性の性疾患、精神疾患を平和的に減らすことにつながりませんか？

申し訳ございませんが、私たちはそのような考えは持っておりません。また、そのような目的では活動していません。逆に、そのような考えによってはポルノ被害や性暴力は減少しないと考えます。